

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600197		
法人名	社会福祉法人慧誠会		
事業所名	グループホームベルエポック		
所在地	帯広市川西町西1線47番地6		
自己評価作成日	平成23年2月25日	評価結果市町村受理日	平成23年4月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0174600197&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成22年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. ご家族と一緒に…
グループホーム職員は、家族ではありません。職員だからできることもあれば、ご家族だからこそできることもあります。だから…ご本人の”生活の質”を考えた時、私たちだけではなく、家族と一緒にご本人の暮らしを考え、作ることを大事にしています。ただ家族それぞれ、これまでの親子関係も違えば、出来る範囲も違います。そこを理解しながら、ご家族ごとに合わせた”介護チームの一員”としての意識づけ(相談・フォローも含む)を大事にしています。

2. 日常におけるOJTの充実
交代勤務であるため、全員が揃う機会はありません。その分、日常の入居者の様子等を記録する日誌はもちろん、職員間で情報発信、意見交換をしあうチームノートを活用しながら職員個々の仕事の状況や悩み特性等を把握し、職員間で相談やアドバイスをしあうよう、チームとして総力でケアをできるような心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は帯広市街地から南に約12キロ程の所にあり、静かな農村風景と静寂に囲まれた環境の中に社会福祉法人慧誠会の各種福祉施設に隣接しているグループホームで、利用者の表情は明るく訪問者にも気さくに話しかけるなど和やかな雰囲気があり、心の安らぎが感じられる。経営母体の法人慧誠会の各福祉施設とも連携し、健康管理終末期対応も整っており、利用者家族との信頼関係も築いている。職員は内外の研修に積極的に参加し認知症ケアに対する理解も深い。今後とも地域と共に他のグループホームの模範となり得る事業所の運営に期待している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームは法人の「基本理念」、高齢者部門の「ケア理念」、更に「グループホーム基本理念」に基づいて運営。法人理念には「地域に還元する」ことが明記されており、建物の中で職員だけでケアを提供するのではなく、家族も含めた地域の力を借りて、あるいは地域に還元して実践を続ける意識を持っている。	グループホーム独自の理念を作り、利用者の意見の尊重を大切にする理念の実践に努めている。又地域に還元することが明記され、玄関、事務所の目に付きやすい所にいつでも気付けるように掲示してある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の小中学生の慰問や、行事を通じた近隣GHとの交流、同一敷地内の生活支援ハウスやデイとの協働行事の実施、近隣障害者施設の行事への参加などを行っている。また日常的にスーパー等の買い物へ入居者と一緒に行く等、ご近所・地域を感じられる機会を作っている。	地域との付き合いは静かな農村地であるが為に民家、住居は少ないが同じ敷地内に生活支援ハウスやデイサービスとの共同行事を実施したり中学生の授業の一環として受入れたりし、積極的に交流をし認知症の理解を深める取り組みをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	GH単独では取り組みはできていないものの、併設の地域包括支援センター職員がGHの行事等に参加しながら職員と交流、認知症のこと、認知症ケアのことを地域への出前講座の中で発信する等、地域支援に結びついている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回会議では、入居者の状況や職員の想いを報告。その後会議だけで終わるのではなく、入居者職員と一緒に、畑起こし、焼肉、流し素麺等の活動や食事会を実施。実際のふれあいを通じてグループホームを感じて頂いている。地域の委員からは住民のボランティア活動の提案等を頂きながら連携を進めている。	2ヶ月に1回町内会、農協、包括支援センター、家族会を集めて会議を開催し、日常業務について報告し情報交換や助言を得ながら連携を深めるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員の施設見学や実習をうけいれたり、介護保険課に意見やサービスに関しての情報を頂いたりしている。敬老会の際には、市高齢福祉課長に出席いただいた。	日常業務を通じて情報交換をしながら連携を深める努力をしている。	比較的、市との連携は薄いと思われるので今後一層の連携を深めるように努めてほしい。情報交換を密にして協力関係を積極的に構築する事を望む。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束がいけないことは職員全員理解できている。実際に拘束に至る事例はないし、職員同士がケア内容に関して意見交換することで、身体拘束という手段をとらずに済むケアを検討。	玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者一人ひとりの外出傾向を把握し、行動を抑制しないように支援している。	

グループホーム ベルエポック

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者部門全体で北星学園大学より講師を招いて研修会を実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修報告や各自の学習による、それらを主とする会議の場は持っていないものの、現在成年後見制度の申請を進めている事例がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、運営規定や重要事項説明書・個人情報保護等について、利用者・家族に十分な説明を行い、さらに個別の状況を検討しつつ、理解・納得・同意を頂いてから契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付係を施設内に配置していると同時に、第三者委員会を設け、利用者・家族より苦情を言いやすい配慮をしている。利用契約時に説明をしている。運営推進会議の委員には複数の家族に参加いただき、その後の食事会等には他の家族も参加。スタッフとの関係を深める機会を増やししながら、共に支え合う関係作りを心掛けています。	利用者の思いや意見は日常の会話の中から汲み取っている。特に家族会に力を入れ家族からの意見等を取りまとめ運営に反映出来るように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議という場よりも、日常の会話の中で意見交換をしながら運営している。	職員の日々の話し合いの中で職員のアイデア、気付きを取り入れている。運営についてなど事業所にとって大事な決定に関しても職員の意見等を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本来の職務を常に自覚する働きかけと共に、それにそった反省材料や向上した事など具体的に納得できるよう心掛ける。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当施設は人材育成目的の人事考課を取り入れている。日常業務を通じスタッフ個々に合った育成を目指している。GHでは個々の目標を公開し相互育成を図ったり、外部研修や苑内の合同研修を実施。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で同業者と交流する機会はあるものの、今年度はGH関連団体が開催する相互交流事業には参加できなかった。その分、運営推進会議での他法人の地域包括職員を通じた情報交換、併設のデイ・特養・生活支援ハウス等と交流する機会や、合同の研修会を開催している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前・後に関わらず、話をすることを大切にしている。その中で不安や楽しみ等今後に役立てる事は、積極的に職員間で協議、共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	双方が十分に説明、話し合う場を大切にしている。GHとしても、入所者または家族の方とも「何を大切にしたいか?」、「こんな事をしていきたい。」と話し合うことを大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	双方が十分に説明、話し合う場を大切にしている。GHとしても、入所者または家族の方とも「何を大切にしたいか?」、「こんな事をしていきたい。」と話し合うことを大切にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が何をしてみたいのか? どうしたら本人が輝くのか?を念頭に置き対応している。家事などの日常的な活動も含め一緒にいき、それらからアドバイスを頂いたり、一緒になって考えたりしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の事で困った時悩んだ時等、積極的に連絡を取ったり、家族からの要望を意識的に聞くことはもちろんだが、日常のケアと一緒に参加して頂くことを意識的に継続している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や店等、関係が途切れないよう出向いたり交流を持つように支援している。	利用者同志で行動したり隣接している母体の総合福祉施設が併設されているのでその方々との交流も深く、利用者の思いに沿って対応するように配慮し無理なく馴染めるよう工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士お互い助け合ったり、顔なじみの関係になるよう、そっとお手伝いをさせて頂いたり、見守りながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最近では医療機関への継続入院で契約終了となった方が数名。その後も病院を訪ね状態を確認したり、医療相談室のSWIに情報提供する等支援が途切れないう意識している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より、利用者と関わったり会話をする中で、本人の希望や意志をキャッチするように心掛けている。また、日常の中や会議等で対応に活かせるようにしている。	利用者の担当職員は決めず日々の関わりの中で個々の行動、表情等から意向や思いを把握している。意思疎通の困難な利用者には家族から情報を得て利用者本意に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にこれまでの生活歴や馴染みのもの等を把握するようにしている。また、アセスメントの記入などでも行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの体調や気分、様子等常に見守り、把握するように努め、その日に合った活動や行動をとって頂くようにしている。こちらから無理強いしないよう、なるべく本人と相談しながら行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時や状態等の変化があった際アセスメントをしたり、すぐに職員間で意見を出し合うようにしている。本人・家族の意見等も踏まえて計画を立てるようにしている。モニタリングのタイミングが遅れることもあるが、日常の変化を職員関係者だけでなく、家族とも共有し、それを反映したプラン作りを意識している。	本人、家族の意向を十分に聞き取り、情報を共有し介護サービスに反映するように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日日誌や個人記録への記録は継続的に実施できている。入居者ごとに担当職員を決めているが、記録をもっと計画や日常のケアに生かすという観点では、もう少し学習が必要。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設との医療連携と、必要に応じて直接各種相談できるよう配慮する。また、GH内で終わらないよう、行事など共同企画している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	残念ながら地域の関係は少ない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医に通院している。またそれ以外にも、当苑の主治医にも適時相談する。	月に1回精神科、内科の医師が来て診療をしながら医師とは何でもやり取りの出来る信頼関係を構築している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の身体的変化、また通院結果など細かく相談・報告している。またバイタル測定時には、会話から心情なども伺っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、できるだけ面会に出かけている。またその様子を、家族にも連絡し、お互いの状況を共通化すると共に、安心できるように心掛ける。家族の許可があれば、病院との説明にも同席する。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の説明と共に、日頃の身体変化と対応について細かく話している。その上で、医療機関と協議する。	現在は重度化した利用者はいないが、終末期のケアに対応出来るように指針に基き、本人や家族の意向を踏まえ医師、職員が連携を取り、事業所が出来る事を説明しながら、方針を職員で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設施設と緊急時対応をしている。緊急時対応など訓練しているが、実際には職員個々の技量や経験の差が予想される。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に非難訓練を実施。一番手薄になる夜勤帯などの火災想定して実施。	年に2回消防署の協力を得て火災避難訓練を実施している。火災報知器等の通報装置設備の点検も行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保守や秘密事項厳守を前提に、一人ひとりに合わせた会話や会話の援助と共に、話の内容や周囲の状況を組み合わせながらホールや居室を活用し、安心して頂く。個人情報取り扱い扱いは職員のみで、持ち出し厳禁。	管理者、職員は利用者の尊厳について常に利用者の立場に立ってのケアを心掛け、誇りやプライバシーを損ねない様に対応して互いに注意し合って取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけこちらからの話が伝わるように、本人に合わせた声掛けをするように心掛けている。また、障害や判断する力を総合的に考えて、現在の能力と潜在力を発揮・表出出来る事を目指す。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人から希望があった場合は、出来るだけその日の内に希望に添えるよう対応している。通院等でどうしても対応出来ない場合は、他の職員とも連携を取り、早い内に実行するように努める。		

グループホーム ベルエポック

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こちらからの一方的な意見だけで、化粧や髪型を決めないように配慮している。散髪は、出張美容室を利用している方が多いが、その方に合った所を選んだりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・調理をして頂き、十分でない所はこちらでお手伝いをさせて頂く。どのような事が楽しくなるのか嬉しくなるのか、それぞれのあり方を考えている。本人の希望を取り入れるように、買い物に行く前に欲しい物を聞いたり、直接一緒に見たり、手にとって好きな物を選んで頂く機会を設けている。一貫しているのは、「食事(過程も含め)と一緒に楽しむこと」。	利用者の意向を把握して食事が楽しみになる様なメニューを作り、季節の味を楽しんでいる。利用者も職員も一語に同じ物を食べ和やかな雰囲気作りで配慮している。朝食・昼食は利用者と職員で作っており、夕食は隣接している福祉総合施設慧誠会の給食センターから配達している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いもあるので、好んでもらえる飲み物を勧めている。また糖尿病の方は、食事量や糖分のバランスには気を使っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ではないが、口の中にたまっているようなら必要に応じて行っている。又、寝る前には必ず義歯の洗浄をし口臭予防をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常の中で職員同士の相談等を大切にしている。まだまだ一人ひとりのパターンを十分に把握しきれていないとは言えないが、日中オムツ着用だった入居者2名が紙パンツに移行する等排泄自立に向けた努力は続けている。	排泄支援の必要な利用者が6人おり、職員間で話し合い情報を共有し利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々の状況に応じた排泄の自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食時には牛乳をお出ししたり、なるべく水分を取っていただいたりしている。必要な方には排便のチェックをし、Nsと相談し下剤の調整など行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特に曜日や時間を設けていない。いかに気持ちよく入浴していただき、「ほっ」と出来る瞬間を作っておける事を念頭に置いている。無理強いはいはしない。	利用者の希望に沿って週に2回以上の入浴をしている。利用者に寄り添って声をかけ納得してもらうように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外に長い時間出かけている日や行動的な時には、他職員に申し送り、疲れを残さないよう配慮している。時々職員がほかのお年寄りの対応でお待たせしてしまう事もあるが、きちんと、説明し納得して頂けるよう声を掛ける。		

グループホーム ベルエポック

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	頓服等を服用されている方々もいらっしゃるの で、職員同士で申し送り、様子を細かく伝え 合っている。薬の事で疑問があれば、かかりつ け医やNsに相談し解決できるよう努めている。 誤飲のないように1つ1つ名前を確認しながら 行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人 ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽し みごと、気分転換等の支援をしている	料理の得意なお年寄りには食事作りや茶碗拭 きをお願いしたり、裁縫の得意な方には台拭き や雑巾縫いをお手伝い。夏場は外に散歩に行 き花を摘んできて居室に飾ったり。隣接する認 知症デイでレクに参加したり、生活支援ハウス の行事に参加する等の活動を継続中。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけ られるよう支援に努めている。また、普段は行けな いような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけられるように支援して いる	当施設では「買い物に」という要望が多く、なる べくすぐに行動できるよう努力している。本人 がその時思ったことやしたい事を実現できるよ うに思っている。又、お年寄り全員でお花見 や紅葉見学に出かけたり、ドライブ(散歩)がて ら近くのアイス屋さんに出かけ食べに行くこと もある。	夏は毎日散歩や日常的に庭に出て外気に触 れる機会を作っている。季節に合わせて花見 や行楽地などに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解して おり、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持 したり使えるように支援している	きちんと管理出来る方があまりおらず、一部の お年寄りに限ってしまうが、本人にお金を管理 して頂き、ご自分の好きな物を買ったりしてい る(飲み物やお菓子等)。また職員と一緒に小 遣い帳をつけ、毎月の決められた金額から やりくりしている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙の やり取りができるように支援をしている	ご家族同士のお話はなるべく、本人が電話し て頂いている。また遠方のご家族と手紙のやり とりが続いている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、 トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくよ うな刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配 慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過 せるような工夫をしている	季節の花、写真、行事の装飾物を入居者と一 緒に飾り、その方の好きな数物・座布団・音楽 等様々なものが居間に持ち込まれ自分の存在 を表現している。入居者は一日中、居間で過 されソファーで横になり昼寝をしたり、新聞・テ レビを見たり、時には何人かの方でゲームを楽 しまれたり、料理をしたりとさまざまな姿で過 されている。	食堂も居間も一体でソファ、テレビが置かれて おり心安らぐ空間となっている。どこの場所か らでも利用者を見守る事が出来るように、配慮 されている。居室は広く一室8畳あり、ゆったり とした部屋になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用 者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫を している	居間の中には大きなテーブルが二つあり、ソ ファーも三つあったりとそれぞれにホッと一息 ついたり、気の合う人と話したり、外の様子を 眺めたり、こっそりお菓子を食べたりと自由に 使い分けている。		

グループホーム ベルエポック

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み品は全く自由です。出来るだけ使い慣れた家具・身の回り品を持ち込まれるよう呼びかけている。自室は本人・家族、本人・職員で相談しながら使いやすいように作っている。	家族の写真や使い慣れた鏡、家具など馴染みの物を置き利用者の今迄の生活と変わりなく、生活が出来るように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレの手すりなど安全に生活できる工夫がされている。居間のテーブルやソファも車椅子の方が通りやすい様に広さを確保している。		